平成 18 年 11 月 1 日

委 員 長 コ メ ン ト

【平成 18 年第 3 四半期】

1　今回の報告期間は平成 18 年 7 月 3 日から平成 18 年 10 月 1 日までの約 3 か月である。

法定報告に基づく新規ＨＩＶ感染者報告数は 233 件（うち男性 214 件、女性 19 件。前回報告 248 件）で過去最高となった前回よりも減少したが、過去 2 位となった。前年同時期の新規ＨＩＶ感染者報告数は 205 件である。

一方、新規ＡＩＤＳ患者報告数は 107 件（うち男性 93 件、女性 14 件。前回報告 106 件）で前回を上回り、過去 2 位となった。前年同時期の新規ＡＩＤＳ患者報告数は 89 件である。

2　感染経路別に見ると、新規ＨＩＶ感染者では同性間性的接触によるものが 136 件（全ＨＩＶ感染者報告数の約 58%）と最も多く（前回約 65%）、そのうち 128 件（約 94%）が日本国籍男性であった。

また、異性間性的接触による新規感染者報告数は 64 件（全ＨＩＶ感染者報告数の約 27%（前回約 21%）、うち男性 49 件、女性 15 件）である。

一方、新規ＡＩＤＳ患者では同性間性的接触によるものが 39 件（全ＡＩＤＳ患者報告数の約 36%（前回約 38%））、異性間性的接触によるものが 39 件（全ＡＩＤＳ患者報告数の約 36%（前回約 38%）、うち男性 30 件、女性 9 件）となっている。

年齢別では、新規ＨＩＶ感染者は 20～30 代が多数（約 69%）を占めるが（前回約 66%）、40 代以上の増加が指摘された前回の傾向が続いている（約 30%（前回約 31%））。新規ＡＩＤＳ患者は 30～50 代以上に広く分布している。

要約すると、感染者・患者とも 87%以上を男性が占め、その中でも同性間性的接触による感染が約 57%を占めているが、今回は日本国籍女性がＨＩＶ感染者 13 件、ＡＩＤＳ患者 10 件、合計 23 件（前回 14 件）と増加が認められた。また、前回の特徴である 40 代以上の増加傾向が続いている。

3　平成 18 年 7 月～9 月末までの保健所におけるＨＩＶ抗体検査件数は 23,502 件(前年同時期 19,976 件)、自治体が実施する保健所以外の検査件数は 5,804 件（前年同時期 4,724 件）、保健所等における相談件数は 43,337 件（前年同時期 40,182 件）となっており、保健所及び保健所以外における検査件数、保健所等の相談件数はいずれも前年同時期より増加した。

4．平成 18 年 1 月から 9 月末までの献血件数（速報値）は 3,738,551 件（前年同時期 4,048,589 件）で、そのうちＨＩＶ抗体・核酸増幅検査陽性件数は 74 件、10 万人当たりの陽性人数は 1.979 件（前年同時期 1.309 件）であった。

前年同時期と比較し、陽性率が高かった。

5．この四半期における新規ＨＩＶ感染者報告数及びＡＩＤＳ患者報告数は、いずれも過去 2 位と高い傾向にあり、その合計数も過去 2 位となった。また、保健所及び保健所以外における検査件数、保健所等の相談件数においては、6 月のＨＩＶ検査普及週間で大幅に増加した第 2 四半期よりもさらに増加しており、前年同時期と比較しても増加した。

６．新規ＨＩＶ感染者報告数を感染経路別に見ると、男性同性間性的接触は依然半数を超えているが、異性間性的接触による感染が日本国籍の男女とも増加している。また年齢別では、若年層にＨＩＶ感染が広がっているものの、前回に引き続いて 40 代以上の増加を認めた。このような傾向と、検査・相談件数が 6 月に実施したＨＩＶ検査普及週間以降も増加していることを合わせて考えると、利用者の利便性に配慮した検査・相談事業による検査体制の整備について一定の成果が認められる。今後もこの傾向が持続するのか注視していく必要がある。

７．各自治体においては保健所等を中心に、さらに利用者の利便性（夜間・休日等）に配慮した検査・相談事業を推進することが重要であり、ＨＩＶ感染の早期発見による適切な治療の促進と感染拡大の抑制に努める必要がある。

　各自治体（特に重点都道府県等）においては、今回の発生動向を考慮しつつ、エイズ対策推進協議会を開催し、予防も含めたエイズ対策計画を早急に策定の上、より一層のエイズ対策を推進されたい。

８．また国民はＨＩＶ・ＡＩＤＳについての理解を深め、積極的な予防と、ＨＩＶ抗体検査の早期受診に努めるべきである。12 月の世界エイズデーが、国民一人一人にとってそのテーマである「Ｌｉｖｉｎｇ　Ｔｏｇｅｔｈｅｒ～私に今できること～」を胸に、さらにエイズのまん延防止や差別・偏見の解消のために、ひとりひとりに何ができるかを国民全体で考えていく機会となることを期待している。